

●天国への手紙 12月24日放送分

ラジオネーム はうりん

タイトル「名前」

あなたと僕は、はじめのうちは、立場で呼び合う仲でしたね。

僕は、ある公共施設の警備員だったあなたのことを「警備員さん」と呼び、

あなたは、その施設の出入り業者の社員である僕のことを、

会社名に「さん」を付けて呼んでいましたね。

その施設に大きな物品を出し入れする仕事が多い僕は、始めの頃、

あなたに強い口調で注意されることも多く、正直あなたのことが苦手でした。

あるとき、なぜそうしたのか自分でも分からないのですが、

あなたに名刺を渡したことがありましたね。

「いつも会うのに、ちゃんと挨拶もしないですみません」というようなことを

言いながら渡したと思います。あなたは少し驚いたような顔をして、

「すみません、私、名刺を持っていないもので…」と言いながら、

ポケットから警備会社の社員証を出して見せてくれましたね。

それから僕たちは、お互いを名前で呼び合うようになり、

すると驚くほどコミュニケーションがスムーズになりましたね。

以前のように強い口調で注意されることもなくなり、

寒い日には僕を呼び止めて温かい缶コーヒーをごちそうしてくれたりと、

あなたへの苦手意識もすっかり無くなりました。

そんなあなたを、あるときから見かけなくなり、

しばらく経ってほかの警備員さんに聞いたところ、

持病が悪化して入院し、先月亡くなられたとのこと。

そして、あなたが僕の名刺を受け取ったとき「警備員に転職してから、

初めて名刺をもらった」と嬉しそうに話していた、ということも聞かせてもらいました。

僕の父と同じ世代か、少し上くらいの年齢とお見受けしていたので、

亡くなられたことに大きな驚きは無かったですね。

「もう少し早く名刺を渡していれば」との思いは今でも消えません。

今は、仕事で出会った人には極力名刺を渡し、お名前でお話しかけるようにしています。

名前で呼び合うことの大切さを感じながら……。

【リクエスト】ゴダイゴ「ビューティフル・ネーム」